天沼 裕子

解説:天沼 裕子

解説: 坂井 里映佳

ピアノは、遡ることバロック時代の 1700 年頃、イタリアで B. クリストーフォリによって発明された。音を発音する 仕組み(アクション)の変化、音域の拡大など、古典派~ロマン派~印象派と、時代ごとの音楽のスタイル、地域の

特色と関連しながら変化していき、20世紀になってほぼ現代のピアノの姿になった。

シューマンが生まれた 1810 年のドイツでは、J.A. シュタインが 18 世紀後半に発明したウィーン式(跳ね上げ式) アクションのフォルテピアノが弾かれていた。ウィーン式アクションとは、現代のピアノとは異なるもので、弦を打つハンマーのシャンクの端のピークがひっかかることによってハンマー・ヘッドが弦を打つ仕組みとなっている。とてもシンプルな構造のためタッチが軽く、指先の微妙な変化をハンマーに伝えやすい。

本日のピアノはシューマン存命中の 1845 年に、ウィーンの名工、J.B. シュトライヒャー(上述のシュタインの孫)が製作したもの。金属製の鋳型鉄骨フレームをもたない木製のケース、皮巻きのハンマー(現代はフェルト)で柔らかい弦を打つため、ロマンティックな響きが醸し出される。音域は 6 オクターブ半(現代のピアノは 7 オクターブと 3 音)。シューマンはウィーン式のフォルテピアノを生涯愛用した。

1. 『子供の情景』作品 15 より〈トロイメライ〉······························ 作曲:R. シューマン

シューマンの妻クララは、当時のヨーロッパ随一のピアニストだった。シューマンは結婚前のクララに夢のような子供時代に浸ることのできる作品、『子供の情景』を贈り、クララは「言葉にできないほど素敵です… トロイメライ、それは美しい夢」と手紙に書いている。

2. 『謝肉祭』 ~ 4 つの音符による愛らしい情景 ~ 作品 9·················· 作曲:R. シューマン

〈前口上〉〈ピエロ〉〈アルルカン〉〈優雅なワルツ〉〈オイゼビウス〉〈フロレスタン〉〈コケット〉〈応答〉〈蝶々〉〈A.S.C.H.-S.C.H.A.(踊る文字)〉〈キアリーナ〉〈ショパン〉〈エストレッラ〉〈再会〉〈パンタロンとコロンビーヌ〉〈ドイツ風ワルツ〉〈パガニーニ〉〈告白〉〈プロムナード〉〈パウゼ〉〈ペリシテ人と戦う「ダーヴィト同盟員」の行進〉

『謝肉祭』は、シューマンが熱狂的に信奉していたシューベルトのワルツとジャン・パウルの小説からインスピレーションを受けて作曲された作品。~4つの音符~とは、クララと恋に落ちる前の恋人の出身地、ボヘミアの街アシュ Asch と、Schumann の綴りの双方に含まれている音名 S-C-H-A(ミ b - ド - シ - ラ)のこと。さまざまな形に姿を変えてこの4つの音符が登場する。お祭りを盛り上げる〈ピエロ〉や〈アルルカン〉。自身の二面性を反映させた瞑想的な〈オイゼビウス〉と行動的な〈フロレスタン〉。当時の人気作曲家〈ショパン〉と〈パガニーニ〉が顔を出したりと、個性的な 21 曲の小品が、当時流行っていた「ヴァルツァー・ケッテ(ワルツのくさり)」のようにつながって演奏される愉しい曲集。



令和3年度 下總院一音楽賞受賞(音楽文化発信部門) ピアニスト 小倉 貴久子 Ogura Kikuko

さいたま市在住。1990 年東京藝術大学を卒業、1994 年同大学大学院音楽研究科器楽専攻(ピアノ)修了。1993 年アムステルダム音楽院を特別栄誉賞付き首席卒業。1989 年第3回日本モーツァルト音楽コンクール、ピアノ部門第1位。1993 年ブルージュ国際古楽コンクール、アンサンブル部門第1位。1995 年同コンクール、フォルテピアノ部門で第1位と聴衆賞を受賞。CD「イギリス・ソナタ」は、平成24年度文化庁芸術祭賞レコード部門〈大賞〉受賞。第30回(2017 年度)ミュージック・ペンクラブ音楽賞 クラシック部門 独奏・独唱部門賞及び第48回(2018 年)JXTG 音楽賞(現・ENEOS 音楽賞)洋楽部門奨励賞受賞。各ホール主催公演や音楽祭、NHK「クラシック倶楽部」「ららら♪クラシック」などへの出演や、NHK「カルチャーラジオ 芸術その魅力~モーツァルトが出会った音楽家たち」の講師を務める。浜松市楽器博物館の録音やコンサートも高い評価を得ている。これまでにCDを50点以上リリース。朝日新聞、読売新聞、毎日新聞や「レコード芸術」誌等で推薦盤や特選盤に選ばれている。著書に『ピアノの歴史』(河出書房新社)。校訂楽譜『ソナチネ音楽帳』(音楽之友社)『ジュスティーニ:12のソナタ集』『パロック名曲集』(カワイ出版)。シリーズコンサート「小倉貴久子の《モーツァルトのクラヴィー

アのある部屋》」全 40 回完結。北とびあシリーズ【小倉貴久子と巡るクラシックの旅】と、自主企画シリーズ「小倉貴久子《フォルテピアノの世界》」を好評開催中。 2003 年より東京藝術大学、2021 年より東京音楽大学の講師を務める。フォルテピアノ・アカデミー SACLA を主宰。 1. オペラ『死の都』より ピエロの唄「わが憧れ、わが幻は甦る」…… 作曲: E.W.コルンゴルト

作詞:E.W.コルンゴルト J.コルンゴルト(父)

原作: F.v. シラー 台本: C. デュ・ロクル

世紀末の作曲家、指揮者。ユダヤ系オーストリア人。下總先生と歳は一つ違い。ナチスに追われ渡米後、映画音楽作曲家としてブレイク。オーケストレーションは見事。J・ウィリアムズの『スター・ウォーズ』は彼の存在なしには生まれなかっただろう。「ピエロの唄」は微妙なテンポの揺れを消化して演奏しないと退屈な音楽になる場合が多い。

2. 埼玉県立浦和西高等学校校歌 ······························· 作曲:下總 皖一 作詞:清水 重道編曲:天沼 裕子

一般的に校歌は誰でも口ずさめるように作曲されることが多い。しかし、この校歌は三拍子、四拍子、五拍子揃った意欲的な作品、その上転調している。西高生は正確に覚えられるのだろうか。下總先生にその制作意図をお尋ねしたいほど挑戦的で開拓精神に満ち溢れている。

3. 石川県立能登高等学校校歌 ···················· 作曲:天沼 裕子 作詞:響 敏也

同校は 2009 年、統合により新設された。郷土愛を横軸に、縦軸は「甲子園」で演奏されることを想定して作曲。 野球部のキャプテンが、地区大会で一勝して是非この校歌を歌いたいと誓ってくれた。変拍子なし。転調なし。

4. オペラ『タンホイザー』より 夕星の歌 ……………………………… 作曲:R. ワーグナー 作詞:R ワーグナー

ヴォルフラムは主人公タンホイザーの恋人に思いを寄せるが叶わない。彼はその女性の死が近いことを知り、星に願いをかける。ドイツ国民なら誰でも口ずさめる歌だ。ワーグナーは 1834 年、マグデブルク歌劇場にてオペラ『恋愛禁制』を作曲。166 年後の 2000 年、筆者も同劇場にて室内オペラ『裏切る心臓』を発表。

5. オペラ『フィガロの結婚』より 伯爵のアリア ·············· 作曲:W. A . モーツァルト 作詞:L. ダ・ポンテ

バリトン歌手にとって絶対外せないアリア。喜怒哀楽が激しいため、エネルギーの配分が難しい。その上、アリアの最後になって難しい三連符が出現する。エネルギー配分の失敗で三連符を断念する歌手が多いが、これをうまく歌えればオーディションに合格。近野さんはもちろんそれを誤魔化さない正統派。

6. オペラ『ドン・カルロス』より ロドリーゴのアリア「最後の日は来た」 ··· 作曲:G. ヴェルディ

銃弾に倒れる伯爵ロドリーゴは親友の王子ドン・カルロスにフランドル(スペイン領)の将来を託し死に絶えていく際に歌われるアリア。何気ない旋律なのに、なぜか胸に迫る音楽。これが巨匠ヴェルディのワザ。巨匠はミラノの自家を、後世の恵まれない音楽家たちのために遺した。この家はオペラと共に今日も綿々と受け継がれている。



令和 2 年度 下總皖一音楽賞受賞(音楽文化発信部門)

指揮者・作曲家・コレペティートア 天沼 裕子 Amanuma Yuko

鴻巣市出身。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業後、ハノーファー音楽演劇大学で指揮を学ぶ。1987 年、同大学院在学中にオルデンブルク歌劇場のコレペティートア兼指揮者となる。1988 年、オランダ・ヒルパースムでの国際指揮者講習会で岩城宏之の指導を受け、最優秀のエドゥアルト・ファン・ベイヌム賞を受賞。岩城氏の招きにより1989 年オーケストラ・アンサンブル金沢の初代常任指揮者に就任。シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭でレナード・バーンスタインのアシスタント・ピアニストを務め、武満徹が音楽監督を務めた「Music Today」に数年にわたり出演。文化庁新進芸術家海外研修制度として、ベルリン国立歌劇場やパイロイト祝祭劇場でダニエル・バレンボイムとロルフ・ロイターのもとオペラの研鑽を積む。1999 年、若き日のリヒャルト・ワーグナーも在籍したドイツ・マグデブルク歌劇場のカペルマイスター(指揮者)に、2003 年には歌劇場付作曲家に就任する。同年、同歌劇場の《アイーダ》日本ツアーが大成功を収めた。2005 年、ドイツ国立ヴュルツブルク音楽大学オペラ科主任およびコレペティートア科教授に就任。終身教授称号を得る。新国立劇場オペラ研修所では音楽主任講師を務めた。作曲家としては、マグデブルクで初演したエドガー・アラン・ポー原作の室内オペラ『裏切る心臓』は大成功を収め、新国

立劇場、ソウル国際室内オペラフェスティバル、ドイツの現代音楽週間等で上演されている。他にオスカー・ワイルド原作のメルヘンオペラ『バラとナイチンゲール』 がある。子供のためのオペラ『鳴かない鶏』は 2005 年のマグデブルク市制 1200 年祭で、歴史ある大聖堂で初演された。

さにわたって支配していたムーア人にちなんだ作品であり、彼らの織物に対しての考えやしきたりが垣間見える。

ムーア人の織物と同じく『7 つのスペイン民謡』からの一曲であり、ゆったりと流れる旋律にのせ、輝かしい未来を待つ愛しい子どものことを想いながら歌う愛の子守唄である。

1888年にロンドンで作曲されたトスティを代表する有名な 1 曲で、歌う際には軽快なリズム、軽やかな旋律が重要視される。作詩はジョバンニ・アルフレード・チェザーレオである。

7. バラの香りは漂い出る ………………………………………… 作曲: F.P. トスティ

庭からバラの香りが漂い、弦からは愛の調べが奏で出、魅惑いっぱいの深い夜に遠く去っていく。と謳う二つの小さな夜想曲の一曲目である。

1885年10月にロンドンで作曲した歌曲。トスティにしては珍しく、なまめかしい雰囲気のある曲。屈折した、でも熱い思いを夢見る様な美しいメロディにのせて書かれている。

9. オペラ『ルサルカ』より「月に寄せる歌」 ················· 作曲:A. ドヴォルザーク

オペラ『ルサルカ』の第 1 幕で歌われる曲で、オペラを超えての名曲として知られており、単独でも演奏される。 王子に恋した水の精、ルサルカが人間になりたいと願い彼への気持ちを月に願う歌。



令和元年度 下總皖一音楽賞受賞(音楽文化貢献部門) 声楽家 松本 美和子 Matsumoto Miwako

武蔵野音楽大学卒業、同専攻科修了。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院を首席名誉賞受賞で卒業。ローマ・アカデミア・サンタ・チェチーリアを修了。ジュネーブ国際音楽コンクール第2位(1位なし)ほか、世界各地のコンクールにて受賞歴多数。1972年、ローマ国立歌劇場で「カルメン」のミカエラ役でデビュー。1991年10月、ウィーン楽友協会にて、日本人としては初めての楽友協会主催によるリサイタル、ドイツ歌曲の夕べに出演し大好評を博した。これまでに、イタリア国内はもとよりベルリン、デュッセルドルフ、フランクフルト、バイエルン国立歌劇場、バルセロナ、ウィーン国立歌劇場、ロンドンのロイヤル・オペラ、シカゴのシビック・オペラハウスなど、世界各国の主要オペラ劇場に出演。日本でも、新国立劇場など国内最高峰の音楽ホールで数々の公演を行い、好評を博している。2009年には、プーランクのモノ・オペラ「声」で大成功を収め、以来同オペラを歌い続けている。活動の傍ら、武蔵野音楽大学(入間校舎)で音楽教育に力を注ぎ、次世代の育成をライフワークのひとつとして取り組んでいる。1998年にチャイコフスキー・コンクールで日本人として初めて優勝した佐藤美校子(平成26年度下總皖一音楽賞音楽文化発信部門受賞者)をはじめ、優秀な声楽家を多数輩出している。2006年4月紫

綬褒章を授与。2012 年、旭日小綬章を叙勲。現在、武蔵野音楽大学特任教授、日本演奏連盟理事、日伊音楽協会理事、日本音楽コンクール顧問。

斬新なテーマ、主役が下層階級の女性でしかもメゾ・ソプラノだったことなどで、初演は不評だったと伝えられている。しかし、初演後ほどなくして病死したビゼーに代わり、友人の作曲家ギローが改訂したウィーン国立歌劇場初演用のグランド・オペラ(レチタティーヴォ)版によって、成功への扉が開かれた。現在、もっとも人気のあるオペラの一つとして、世界中で演奏されている。

舞台は 1820 年頃のスペイン。竜騎兵伍長のドン・ホセが、カルメンと出会ったことから徐々に破滅へと向かう様を、全四幕を通してエネルギー溢れる音楽で描いている。第2幕と4幕にダンス音楽も登場するが、前奏曲の冒頭から正に身も心もおどる音楽の渦、観客を未知の世界へと引き込む。

昨年末、オペラ彩が上演した「カルメン」で、振付の藤井利子先生の協力を得、踊りナンバー以外の間奏曲など幾つかのシーンでダンサーたちに登場願った。訓練された身体表現が言葉以上に感情や情景を語り、各々ドラマを盛り上げてくれた。本日は、ダンス版「カルメン」前奏曲で、ドン・ホセを中心に3人の女性-母と許嫁のミカエラ、そして運命的な出会のカルメンーが踊る。音楽と肉体の躍動をご堪能いただきたい。

明治 17年の「秩父事件」100年を記念してオペラ化。31年が経った今、オペラ彩を率いる和田タカ子氏―初演当時スタッフの主要メンバーとして名を連ねる―が、事件の底辺に流れる"民衆のチカラ"、特に若者が命を賭して注いだエネルギーをもう一度新たな舞台でご覧いただきたいと、満を持してオペラ彩の第39回定期公演(12月和光市にて)に選曲した。

オペラは、多くの登場人物を実際の事件に沿った配置、合唱を秩父の山々の木々として登場させるなどの構成と、村人のことばや心のヒダが社会情勢や土地柄と緻密に織り込まれた音楽に、興味を惹かれる。

秩父郡では土地柄多くの農民が養蚕製糸業を営んできた。明治初期は江戸時代から続く生糸景気にわき、花火だ村芝居だ、と村には活気があった。が、明治 15 年頃から不況が深刻化、百姓たちの生活は次第に苦しくなる。更に高利貸しの横暴が百姓の極貧生活を強いる。やがて、自由民権運動に心動かされた一部が「困民党」を結成、諸税の減免や高利の見直しなど、合法的な請願を繰り返す。反して役所や高利貸しの態度は硬化、彼らは遂に武装蜂起に出る。明治政府から「暴動」の刻印を押されたこの運動、政治的圧力のもと惜しくも 1 週間後には鎮圧、4 千人に近い処罰者、首謀者が極刑となる悲惨な結果を迎えた。

この農民たちの団結力、より良い未来を目指した志など、現在も多くの人々に感銘を与えている。

① 第一幕 序章

地霊や風そして木々が、「歴史の証人」として、この事件の顛末を語り継ぐ。

② 第一幕 第三場 黒田惣吉と新井キヌの二重唱

「困民党」の活動理念を…、新しい時代の幕開けに必要なことだと熱く語る惣吉。キヌは理解し頼もしく思っている。 しかし、 彼女はその時既に父の借金のカタに身売りを決意していた。

③ 第二幕 序章

秩父の武装蜂起に対し、「暴動」鎮圧要請の電報が内務卿山県有朋のもとに届いた。民衆の蜂起イコール革命、 と常に不安を抱く政府は、自由民権運動壊滅をも狙い即刻憲兵隊の出動を命じる。



令和3年度 下總皖一音楽賞受賞(音楽文化貢献部門) オペラ演出家 直井 研二 Naoi Kenii

越谷市在住。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科卒業。1973 年東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。1981 年文化庁芸術家在外研修員として、ウィーン国立歌劇場とニューヨーク・メトロポリタン歌劇場で1年間のオペラ研修を受ける。帰国後1983年からオペラ演出を開始、多くの海外作品に加え国民文化祭等での新作オペラ初演他邦人作品も多数演出。オペラ彩をはじめとする全国の地域オペラに対する長年の尽力は高い評価を得ている。中でも1991年からはオペラ彩の30作品以上を演出し、その活動が今回の受賞に繋がった。代表作品には「泣いた赤鬼」(2005年)、「かぐや姫」(2006年)、「トゥーランドット」(2007年)、「ナブッコ」(2008年)、「ゼッキンゲンのトランペット吹き」(2011年)、「ランメルモールのルチア」(2015年)、「トスカ」(2018年)、「カルメン」(2021年)など。オペラ彩合唱団を母体として市民参加型オペラ公演の定着を目指す中、「トゥーランドット」(2007年公演)で佐川吉男音楽賞奨励賞、「ナブッコ」(2008年公演)で三菱UFJ信託音楽賞奨励賞、「マリア・ストゥアルダ」(2012年公演)で三菱UFJ信託音楽賞を受賞。2019年の「ナブッコ」公演にあたっては、東邦音楽大学附属東邦第二高等学校や埼玉県立浦和高等学校他高校生、放送大学埼玉学習センター合唱団、和光市内児童合唱団が出演

し、オペラ彩合唱団が築いてきた市民参加型オペラ公演の集大成としても高評価を受けた。オペラ教育機関としては、東京藝術大学をはじめ内外での指導歴も長く、 多くの教え子が世界の舞台で活躍している。現在、宇都宮短期大学特別講師を務める傍ら、フリーオペラ演出家として活躍中。